第 57 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告① - Continuing Education Courses に参加して -

大鵬薬品工業株式会社 安全性研究所 一ツ町 裕子



本年度の SOT 学術年会は 2018 年 3 月 11 日から 15 日の日程で、テキサス州サンアントニオの Henry B. González Convention Center で開催されました。私は、日本毒性学会教育委員会が企画する SOT 派遣事業として参加させていただき、教育コースの「An Introduction to the Basics of Immunotoxicity Testing」 と「Lead Optimization of Therapeutic Small Molecules: From Drug Target to Clinical Candidate Selection – Strategies and Decision Making」の 2 コースを受講させていただきました。5 年前に同じサンアントニオで開催された SOT は暑かった印象があったのですが、今回は、到着日こそとても暑かったものの、翌日から帰国するまでは朝晩は寒く、また日中も晴れてはいましたが暑くなく、過ごしやすい気候でした。暑すぎず

寒すぎずの気候からか、観光客が非常に多く、毎日会場近くのリバーウォークでは陽気な音楽が流れていました。

前者の教育コースでは免疫毒性試験の基礎的な試験法についての説明から、ヒトのリスクアセスメントのための予測性に関する報告、現在試験法として確立すべく行われている新たな動物を用いた試験法、in vitro 試験法についての取り組みまで幅広く紹介されていました。一言に「免疫毒性」と言っても、immunosuppression、cross-reactivity、antigenicity、hypersensitivity、autoimmunity など生体で起こりうる様々な免疫反応とそれに対応する毒性試験法が含まれているため、範囲がとても広くて複雑ですが、講師の方々の丁寧な説明で理解を深めることができたと思っています。後者の教育コースでは、Lead optimization における毒性評価の関わり方について学ぶもので、聴講者が多く、非常に熱いコースでした。日本毒性学会学術集会でも2年に渡って探索安全性評価に関する企業の取り組みなどのシンポジウムが開催されていますが、比較的初期の創薬段階からその時期に適した評価を行っていくことはより早くより良い薬を患者さんに届けるためには大切であり、従来の動物を用いた毒性試験ではなく、新しい材料やそれを用いた評価法、in silico 評価法の理解も重要なのだと思いました。

今回, SOT 学術年会に参加させていただき,教育コースだけでなくシンポジウムや企業セミナー等,様々な分野

の最新情報を収集することができました。SOT に参加したのは数年ぶりでしたが、以前よりも企業セミナーが大幅に増え、それぞれが最新の機器や試験法の紹介を行っており、興味のある分野のセミナーでは非常に参考になる話がたくさん聞けました。また、携帯にアプリを入れておけば、重たいプログラムや抄録集などは不要でスケジュール管理までしてもらえるなど、非常に

便利になっていたのが印象的でした。最後に、今回の教育コースへの参加の機会を与えていただきました日本毒性学会教育委員会及び事務局の皆様、また、参加にあたりご協力いただいた関係者の方々に、心より感謝申し上げます。



